

2009年度

事業報告並びに
収支決算報告書

事業年度 自 2009年1月1日
至 2009年12月31日

2009年度 社団法人 鶴岡青年会議所 スローガン

和

～想い溢れるJayceeの力で、地域に和を創造しよう～



一年を振り返って

2009年度 社団法人 鶴岡青年会議所

理事長 **佐藤 智信**

2009年はとても充実し、楽しい一年間でした。おそらく今後の人生においてもこれ以上の年はないのではと思う一年間でした。

年頭の大変緊張した新年賀詞交換会から始まり、毎月さまざまな事業・例会・公開例会を行いました。LOM内外の交流、地域を再認識する例会、地域を元気にする企画、青少年育成の為の事業と様々です。その中でも2009年の目玉事業として7月の「社団法人日本青年会議所東北地区山形ブロック協議会第42回会員大会 鶴岡大会」主管致しました。前回鶴岡で行われたブロック会員大会を経験した現役メンバーは当然のことながら居らず、試行錯誤しながら如何にそれぞれが何かに挑戦できるかを考えました。その結果、メンバーそれぞれが叱咤激励されつつも課題に取り組み、そして鶴岡に来て頂いた方々に楽しんでもらいながら、そして大いに感動していただき大成功に終わったと自負しております。また、8月には第十九回赤川花火大会を大会会長として参加させて頂きました。公衆の面前で大会会長の挨拶をさせて頂きましたが、地域の子供たちの未来の為に、陰日向となり支えてくれたメンバーを誇りに思っていることをお話させて頂きました。

それから京都会議、ASPAC、サマーコンファレンス、全国大会など、ほか多くの諸大会への参加をさせていただきました。その際には大勢のメンバーから共に参加し、貴重な経験をさせていただきました。各LOM理事長をはじめとする多くのメンバーの方々との交流や意見交換も大変有意義なものでしたし、今後の鶴岡青年会議所のために活かせる人間関係を作れたかと思います。

こうして振り返ると走馬灯のようにいろいろな笑顔が思い出されます。

社団法人鶴岡青年会議所のリーダーとして頼りに成り得たかは皆さんから判断して頂きますが、年頭に掲げた「和」の創造はメンバーの表情を見る限り少なからず達成出来たのかなと感じておりますし、OB・現役関わらず、笑顔で支えてくれた皆さんのお陰で誇りある一年を過ごさせて戴いたと感謝しております。本当にありがとうございました。

2009年度 社団法人 鶴岡青年会議所 会員数

2009年度 1 月 1 日 会員数 87名

2009年度 入会者数	21名
-------------	-----

2009年度 退会者数	9名
-------------	----

2009年度 除名者数	1名
-------------	----

2009年度 卒業者数	9名
-------------	----

2009年度 12月31日現在 会員数 91名

2009年度 社団法人 鶴岡青年会議所 事業内容

1 月

9日	第1回正副常任ミーティング	JC 会館
15日	第1回理事会	JC 会館
17日	第84回定時総会	東京第一ホテル鶴岡
17日	1月例会「事業説明会・新年賀詞交換会」	東京第一ホテル鶴岡
22日～25日	日本青年会議所「京都会議」	京都
24日	東北地区協議会「第1回会員会議所会議」	京都
24日	日本青年会議所「第129回通常総会」	京都
31日	山形ブロック協議会 「第1回会員会議所会議・アカデミー開校式」	寒河江

2 月

3日	第2回正副常任ミーティング	JC 会館
12日	第2回理事会	JC 会館
17日	2月例会 「3LOM 合同例会山形ブロック協議会会長公式訪問」	庄内

3 月

3日	第3回正副常任ミーティング	JC 会館
8日	3月例会「心がけよう小さな防災! そのときあなたは何かできるのか!」	出羽庄内国際村
12日	第3回理事会	JC 会館
20日～21日	山形ブロック協議会「第2回会員会議所会議」	東京
21日	日本青年会議所「第130回通常総会」	東京
31日	第4回正副常任ミーティング	JC 会館

4 月

14日	第4回理事会	JC 会館
18日	4月例会「コミュニケーションセミナー～自分の言葉で しっかりと伝えられる明るい職場を創ろう!!～」	出羽庄内国際村
18日	新入会員歓迎会	
25日	山形ブロック協議会「第3回会員会議所会議」	高畠
25日	OB交流会	鶴岡
28日	第5回正副常任ミーティング	JC 会館

5 月

12日	第5回理事会	JC 会館
17日	5月例会「わんぱく相撲鶴岡田川地区大会」	鶴岡市小真木原運動公園相撲場
25日	天神祭パレード	鶴岡

6 月

2日	第6回正副常任ミーティング	JC会館
4日～7日	国際青年会議所「AREA B会議（ASPAC）」	長野
6日	山形ブロック協議会「第4回会員会議所会議」	長野
11日	第6回理事会	JC会館
12日	6月例会「会員大会 Jump Meeting ～修験の山に集結せよ～」	出羽三山神社三神合祭殿
13日	特別事業「わんぱく相撲山形ブロック大会」	鶴岡市小真木原運動公園相撲場
21日	特別事業「赤川河川敷クリーン大作戦 私たちの赤川を見つめ直そう！（やまがた協働運動）」	赤川河川敷
27日	山形ブロック協議会「第5回会員会議所会議」	天童
30日	第7回正副常任ミーティング	JC会館

7 月

3日	特別事業「認認証伝達式」	出羽ホテル
4日	たなばた献血	鶴岡
5日	内川清掃作業	鶴岡
7日	第7回理事会	JC会館
11日	山形ブロック協議会「第6回会員会議所会議」	鶴岡
11日～12日	7月例会「第42回山形ブロック会員大会鶴岡大会」	鶴岡
25日～26日	日本青年会議所「サマーコンファレンス2009」	横浜
28日	第1回臨時正副常任ミーティング	出羽庄内国際村
28日	第1回臨時理事会	出羽庄内国際村
28日	第8回正副常任ミーティング	出羽庄内国際村

8 月

1日～2日	特別事業「第25回わんぱく相撲全国大会」	両国国技館
6日	第8回理事会	出羽庄内国際村
9日	8月例会「第十九回赤川花火大会」	赤川河川敷
17日	山形3区を考える会合同事業 「衆議院議員選挙公開討論会（山形3区）」	庄内町

9 月

1日	第9回正副常任ミーティング	JC会館
10日	第9回理事会	JC会館
12日～13日	東北地区協議会「会員大会東北青年フォーラム in 南相馬」	南相馬
17日	第85回定時総会	出羽ホテル
17日	9月第一例会「アニュアルレポートミーティング」	出羽ホテル
25日	9月第二例会「鶴岡市長選挙公開討論会」	鶴岡市文化会館

25日	3LOM合同事業「第22回日本海夕陽ラインシンポジウム」	酒田
26日	山形ブロック協議会「第7回会員会議所会議」	村山
29日	第10回正副常任ミーティング	JC会館

10 月

8日	第10回理事会	JC会館
11日	10月例会「森永卓郎氏 地域経済活性化の秘訣を伝授」	山形県立鶴岡南高等学校鶴翔会館
15日～18日	日本青年会議所「第58回全国会員大会 沖縄那覇大会」	沖縄
16日	日本青年会議所「第131回通常総会」	沖縄
24日	山形ブロック協議会 「第8回会員会議所会議・アカデミー卒業式」	山形

11 月

4日	第11回正副常任ミーティング	JC会館
12日	第11回理事会	JC会館
14日	山形ブロック協議会「第9回会員会議所会議・卒業式」	寒河江
23日	11月例会「愛するからこそ、食べさせたい、学びたい ～食育の大切さ、親子で楽しく学ぼう～」	鶴岡市藤島体育館
27日	東北地区協議会「第2回会員会議所会議・卒業式」	江刺

12 月

1日	第12回正副常任ミーティング	JC会館
5日	特別事業「クリスマス家族会」	マリカ市民ホール
10日	第12回理事会	JC会館
12日	第86回定時総会	東京第一ホテル鶴岡
12日	12月例会「卒業式」	東京第一ホテル鶴岡

1月例会

「事業説明会・新年賀詞交換会」

2009年度(社)鶴岡青年会議所のスタートにあたり、御来賓・賛助会員・OBOG会員に今年度の事業説明を紹介する事により我々の活動を理解して頂き、これからのJC活動がより円滑に行われるようにする事を目的として、新年賀詞交換会が行われました。



今年のスローガンを書き初め



鏡開き



最後はみんなで輪になって

2月例会

「3LOM 合同例会山形ブロック協議会会長公式訪問」

庄内3つの青年会議所、(社)酒田青年会議所、(社)庄内中央青年会議所、(社)鶴岡青年会議所が合同で2月例会「ブロック会長公式訪問」を行いました。内容は日本青年会議所基本方針のプレゼンテーション、山形ブロック協議会事業説明、各エリア会議所事業説明でした。

庄内町での例会、しかも天候の非常に悪い中、多くのメンバーが参加し、今年の山形ブロックの方針を聞くだけでなく、(社)鶴岡青年会議所の事業アピールも行うことが出来ました。



みんなで今年1年の活躍を祈って



高田誠山形ブロック協議会の方針説明



山形ブロック協議会の事業説明

3月例会

「心がけよう小さな防災! そのときあなたは何かできるのか!」

「心がけよう小さな防災! そのときあなたは何かできるのか!」をテーマに開催された3月例会。「防災」は日常的でありながら、非日常的な行為です。常日頃からの「災害」に対する意識の啓蒙は大変難しいものでした。

しかしながら、一般の方（親子連れ）のキャッチーなイベントに対しての反応は良く、もう少し講演内容とリンクすることが出来ればもっと有意義な時間が創出できたと思いました。TADSネット（災害支援ネットワークシステム）についてはメンバー及び一般市民の方に詳しく周知していただける内容とまではいきませんでした。青年会議所の活動の一部として災害ネットワークがあるということを提示することができました。

一昨年から画策してきた災害支援ネットワークを会員メンバーではなく一般の方に広めるのは、おそらくこの鶴岡青年会議所の公開例会が初の試みでありましたし、様々な反応を伺う事ができ良い事業であったと思います。事前準備並びに運営上不備な点多々ありましたが、防災を考える機会を作り、災害は身近にあるということを認識して頂けた事が一番の収穫であり、これからもこのような防災に対する例会は継続していただきたいと思います。



講師の澤祥教授(国立鶴岡工業高等専門学校)



炊き出し風景

4月例会

「コミュニケーションセミナー

～自分の言葉でしっかりと伝えられる明るい職場を創ろう!!～」

去る4月18日(土)、出羽庄内国際村に於きまして、4月例会コミュニケーションセミナー～自分の言葉でしっかりと伝えられる明るい職場を創ろう～が開催されました。講師に YBC 山形放送アナウンサーの小川香織氏を招き、相手に言葉を伝えるというテーマで講演をしていただきました。

ユーモアのある講義内容で会場からは笑い声も聞こえ、講義は終始和やかなムードで進みました。土曜の夜の公開例会ということもあって約120名の参加がございました。参加された方の中からは、このようなイベントがあれば、次もぜひ参加したいとの声も寄せられ有意義な時間が造れたと思いました。



講師の小川香織さん



講演風景

5月例会

「わんぱく相撲鶴岡田川地区大会」

あいにくの雨の中での開催となりましたが、けがや事故等もなく無事に終了したことで内心ほっとしています。これも鶴岡相撲連盟や関係各機関、もちろんLOMメンバーの皆様の協力があるからこそ大会成功と言えるのではないのでしょうか。

また、昨年度よりも多くの小学生より参加していただきました。参加、ご協力いただいた皆様には本当に心から感謝申し上げます。



表彰式後の記念撮影



熱戦



表彰式

6月例会

「会員大会 Jump Meeting ～修験の山に集結せよ～」

6/12 (金)出羽三山神社 三神合祭殿にて6月例会「会員大会 Jump Meeting」～修験の山に集結せよ～が行われました。

出羽三山神社は12年に一度の丑年ご縁年でご利益も12倍となるこの機会にブロック会員大会鶴岡大会の成功を多くのメンバーと祈願いたしました。また出羽三山神社権宮司 宮野直生氏を講師に迎え「出羽三山神社の歴史と未来へ伝えるメッセージ」をご講演していただきました。

出羽三山神社の歴史・文化を学びこの鶴岡市を改めて知ることができた貴重な経験だったのではないかと思います。そして精進料理においては地元の食材、意味、他所との違いという部分で見識が広がったと思います。

羽黒山神社という神聖な場所でブロック会員大会鶴岡大会へ向け、メンバーの気持ちを集結させることができた例会でした。



羽黒山頂上にて



講師の出羽三山神社権宮司 宮野直生氏



大会成功のカギ

7月例会

「第42回山形ブロック会員大会鶴岡大会」

7/12(日) 7月例会 第42回山形ブロック会員大会 鶴岡大会がグランドエル・サンにて行われました。大会式典オープニングでは大会スローガン「天性開花」を書道と勇壮な和太鼓で演出しました。また、ブロック役員、各青年会議所理事長の紹介が行われ、高田ブロック会長の挨拶では山形ブロック協議会の事業、青年会議所の活動が紹介されました。鶴岡青年会議所佐藤理事長の挨拶では鶴岡の歴史、風土、今後の青年会議所の活動などが紹介されました。

大会メインフォーラムでは講師に平尾誠二氏を迎え「ラグビーに学ぶリーダーシップとつよい組織作り」と題しご講演していただきました。何事にも前向きに取り組む、何か一つでも吸収し成長しようとする姿勢、自他の長所を見つけその長所活かすリーダーシップと組織作りの大切さを学びました。“つよい”指導力と行動力を持ち続け、自分の限界に挑戦していくという意識改革の必要性を感じました。大懇親会では鶴岡の食を活かした各ブース出店とフードライブ、またバンド演出で最高に盛り上がりました。

鶴岡青年会議所メンバーひとり一人が出来ることはすべて自分達でやろうと取り組んだ成果が表れた会員大会でした。



講師の平尾誠二氏



高田誠山形ブロック協議会会長

8月例会

「第十九回赤川花火大会」

8月9日(日) 8月例会 第十九回赤川花火大会が赤川河川敷にて行われました。

周辺地域が土砂降りでご心配をお掛けした降雨も開会中は無く、また地域の皆様から多大なるご協力をいただき全国各地から大勢の皆様にお越しいただく事ができました。大会設営から撤収作業までそして、大会当日におきまして大きな事故もなく大成功のうちに終了したと思っております。「感動日本一!」ありがとうございました。



結城委員長のカウントダウン



夜空を埋め尽くす花火



メンバーの準備作業

9月第一例会

「アニュアルレポートミーティング」

9月第一例会 アニュアルレポートミーティングが9月17日(木) 20:00出羽ホテル 2階 出羽の間にて行われました。今年度の各委員会の年間事業計画を中間で評価、検証したものが各委員長からメンバーに今年度残りの事業と次年度に繋げるために発表されました。

今年度は中間報告と事業報告と事業計画書を(社)日本青年会議所東北地区山形ブロック協議会ブロック進化創造進化創造委員会に提出して外部より事業を評価検証していただいたことにより公益性のある事業とまたその事業計画を改めて行う必要があると認識されました。

出向者報告では日本青年会議所出向2名、東北地区協議会出向1名、山形ブロック出向3名を抽出して出向先の事業概要と中間報告をメンバーに発表し LOMへの情報のフィードバックを行いました。



恩田直前理事長の日本JC出向報告



理事長挨拶

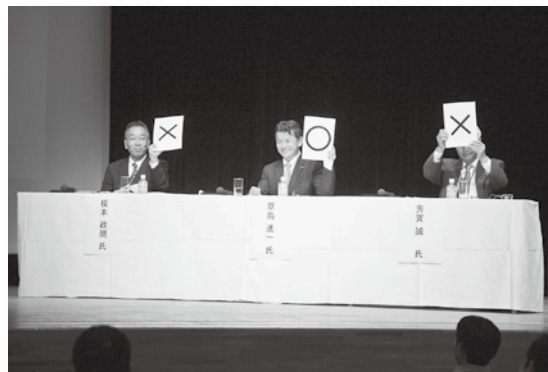
9月第二例会

「鶴岡市長選挙公開討論会」

鶴岡市長選挙公開討論会が鶴岡市文化会館にて地域の皆様350名のご参加を頂き開催いたしました。

有権者の政治・行政に対する認知・関心度を高め、候補者が掲げるマニフェストへの理解を深める機会を提供し、投票率向上を図ることを目的として実施致しました。

雇用対策、少子高齢化、観光、財政問題など、今後の市政に対して一問一答形式で3名の立候補予定者に討論して頂き、政策の違いを直接立候補予定者の言葉で聞き、地域住民の方々が理解する場を設けることができました。



3名の立候補予定者



コーディネーター



公開討論会会場

10月例会

「森永卓郎氏 地域経済活性化の秘訣を伝授」

10月11日(日) 山形県立鶴岡南高等学校
鶴翔会館にて経済アナリスト、獨協大学
経済学部教授の森永卓郎氏を講師に迎え
「経済構造の変化と地域経済の再生策」と
題し講演会を行いました。

3連休の中日、市長、市議会議員選挙
と重なりなかなか参加者が集まりにくい
状況ではありましたが250人以上のご来
場を頂きました。森永先生には今の経済
状態を分かりやすく説明していただきま
した。またそれを引き起こした原因とそ
れを解決するための対策を示していただ
きました。参加者の皆様には大変実のあ
る講演会となりました。



講師の森永卓郎氏



森永卓郎氏と理事長

11月例会

「愛するからこそ、食べさせたい、学びたい ～食育の大切さ、親子で楽しく学ぼう～」

料理研究家の吉原ひろこ氏、フードスタイリストの板井典夫（マロン）氏をお迎えして、安全で健康な毎日の生活のために、食事の大切さや地元食材について親子で学んでもらう場を設け、食物に恵まれ食事できることに感謝しながら、より多くの親と子供たちに次世代の「食育」の担い手となっていただきたいと願い、この食育事業を開催いたしました。



吉原ひろこ氏と板井典夫(マロン)氏



だがしや楽校



親子にて参加

12月例会

「卒業式」

時代の変化と共にJCを取り巻く環境も同じく大きく変化しております。

そのなかで卒業メンバーは、Jayceeとして「英知と勇気と情熱を持って明るい豊かな社会を築き上げる」ことに邁進してきたこと、その運動はメンバー・LOMにとっても大きな礎となって残ります。

卒業メンバーが今まで築いてきた事を再確認し、卒業メンバーと現役メンバーとの「和」を深めること。そして、卒業メンバーの「想い」を次世代のメンバーに受け継ぐことで、今後の魅力あるLOM運営や個人の交流、スキルアップに役立て、心に刻まれる感動の卒業式で卒業メンバーの人生の1ページを有終の美で飾ることができました。



卒業生一同



卒業式①



卒業式②

—— 2009 年度を振り返って ——

直前理事長 兼務 会員拡大プロジェクトリーダー 恩 田 健 次

1年間、大変拙い職務であったことをお詫び申し上げますと共に、佐藤智信理事長始め理事各位が1年間「明るい豊かな社会」実現に向け、日々邁進されていた事に敬意を表します。

今年1年間振り返ってみて、昨年、理事長を努めさせていただき、当時感じていたLOMメンバーや地域に対する思いと、今現在直前理事長を務めさせていただいた思いには差がないことを改めて感じています。地域を愛し、LOMを愛する思いをなかなか表現は出来ませんが、これからも持ち続けていきたい。そしてそんな仲間を一人でも多く増やしていきたい。私のJC人生もまだまだ落ち返し地点です。これから先、これまでの経験で自分なりに頑張っていこうと思ったそんな1年でした。皆様ありがとうございました。

地域育成室 担当 副理事長 小 池 昌 和

先日、私が副理事長で受け持つ担当委員会の最後の例会事業が終わった。

出演したタレントさん達を空港まで送りお別れした後、空港のラウンジで普段あまり飲まないコーヒーをしかもブラックで飲んだ。無事終わった事への安堵感と副理事長という役職を通じてこの一年が、自分にとって、周りにとってどうだったのかを考えてみた。

2009年 理事長のスローガンにある「和」。自分は上手く創造できたのだろうか。

一月担当例会の「新年賀詞交換会・事業説明会」は多くの来賓の方々を向かえる事業の難しさを教えてくれ、自分や室長を含め、委員長も勉強の連続だったように思います。

他の事業も、公益社団法人を目指している関係上、一般の人達を対象に行う公開例会の事業頻度が大変多くなり、例会の内容や上程資料の質が以前とは大分変わって、年々難しくなっていると感じます。

今年は本当にいろんな意味で厳しいポジションでしたが、みんなに助けられながら、終わってみると、両委員長の成長が頼もしく、前向きに次年度の事を考えているその姿を見ると、色々あったが「終わり良ければ全てよし」と思っております。

最後に、関係いたしました全ての方に感謝を申し上げます。一年間本当にありがとうございました。

JC交流室 担当 副理事長 工 藤 規 行

本年度副理事長として、会員大会と交流の各委員会を担当いたしました。

10年もいろいろな担当を受けてきたわけですが、毎年ながら意義のある年だったと思います。

16年ぶりの会員大会を主管し、LOM及びBL内のメンバーにはこれまで経験のない大会にするといって、特に大懇親会では飲食とアトラクションの時間をはっきり分けて参加者の気持ちの高揚度を継続させられるような懇親会ができたと思い、狙いどおりでもあったしよく実行委員長を務められたなと素直に感じます。

また交流委員会も持ち前のバイタリティを十分に発揮し、2月と12月の各例会を担当してくれました。

今年の各委員会運営にあたり特に気をつけたことは、場面によってそれぞれではありますが、事業の中で役割分担をしっかりさせ、その歯車をうまく組み合わせて回すために室長・委員長・副委員長は何をしなければならないかということで、敢えて自分自身は直接的な仕事は全て任せつつもです。そのため、かなり細かくきついことも言いましたが、室メンバーもそれに答えてくれたと思い、改めて感謝申し上げます。

この経験を一つのヒントにして次年度もさらに頑張りたいと思います。

日本一花火室担当 副理事長 佐 藤 正 廣

今年といわず、昨年の花火大会前の内々定の段階から、この文章を書いている現時点でも「花火」との関わりは絶えず続いています。ひとつの委員会の小さな事業で19年前に始まった花火事業も、今年は事業費、花火演出費も近年最高額を更新しつつ、また大会の質は言うに及ばず、大会運営方式そのものの質を向上させようと、「安心・安全・快適な笑顔あふれる花火大会」を目指して邁進してきた一年でした。実際に執行部として花火大会に関わるのは入会以来初めての経験でしたが、当初はこんなにも多くの関係機関・団体があり、また各々の花火大会への「思い」があることを知り、驚くと同時に重くのしかかる責任に尻込みしたものでした。そんな中で、OB諸氏の暖かい励ましや室メンバーの溢れる意欲に支えられて、どうにかこうにか次代に繋げる「形」を残せたと自負しており

ます。もちろん、自分これは、自分ひとりで為し得たことではなく、室メンバーを始めとする青年会議所メンバーとご尽力頂いた関係機関・団体の皆様のお力添えあつてのことではあります。そこで目標が定まったときの一点に集中する青年会議所の底力を実感し、また、その活動を支える地域の青年会議所に寄せる期待の大きさも感じました。この貴重な一年の経験を糧に、自分自身の次年度活動へと引き続き、止まることなく進んで参ります。

専務理事 菅 原 豪 雄

まずは、一年間、鶴岡青年会議所の運営に御協力いただきましてありがとうございます。また、専務理事の機会を与えていただいた、智信理事長に感謝申し上げます。

2008年の秋から数えると16ヶ月間全力で責務を全うすべくがんばってきたつもりです。至らない点は多々あると思いますし、自覚もしておりますが、手は抜いてはおりませんのでこれが私の限界と思っていただければ幸いです。

途中体調が悪く「このままではやばいな」と思ったこともありましたが、無事一年間を終えることが出来ますこと、そしてなにより、最後の最後まで楽しいJCライフを送ることが出来ましたこと、事務局運営に惜しまぬ協力を頂いたこと、事務渉外室の皆さんに感謝いたします。最後の常任の後、成り行きで、龍ノ湯さんに4人で泊まったことも良き思い出です。そして、山形県内各地はもとより全国各地に快く同行してくれたことも、とても嬉しく思います。

果てしなく長い一年間に思えてスタートしましたが、振り返ると長くもあり短くもある不思議な感覚ですが、なんとか無事一年間を過ごす事が出来たことに感謝いたします、ありがとうございました。

財政局長 富 樫 幸 衛

2008年12月1日より公益法人制度改革関連三法が施行されました。現行の公益法人は特例民法法人となり5年間の移行期間内に、公益認定を受け「公益社団法人」となるか、認可を受けて「一般社団法人」に移行するかを選択しなければなりません。

このような動きの中、鶴岡青年会議所も社会的責任を自覚し、公益性の高い事業を推進していく上で、財政局としても、健全な財務内容の維持は無論のこと、管理費の見直し、経費の削減を行ないながら、公益目的事業費比率50%以上を目指して、各事業予算の配分を行ないましたが、その反面、JCとしてこれまで培ってきた青年経済人としての会員交流的な部分が薄れてきたのも事実です。今後は、単なる50%以上という数字的な部分のみではなく、如何にして、公益事業と交流事業のバランスを保ちながら、「公益社団法人」に向けて進んでいくべきかと、今年度、財政を担当させていただき感じた次第です。

政策広報室 室長 相 馬 大

社会の構造が大きく変わった2009年。私たちの地域も否応なくその濁流の真ただ中におかれました。とてつもない大きな力の前に私たちは無力なようですが、それでもできる限りの役割を果たすことが、必ずこの地域のためになると信じて1年活動しました。

政策委員会が担当した3月の防災についての事業、8月の衆議院選挙山形3区公開討論会、9月の鶴岡市長選挙公開討論会。それ自体がすぐに街を変えるわけではありませんが、そこでまかれた種が、この地域の将来にやさしい傘を差してくれるものと望んでいます。

また、広報委員会が担当した4月のコミュニケーションセミナー。地域の笑顔を一つでも増やしていることを期待しています。また、広報紙やホームページなど、発信した情報が一人でも多くの人に届き、種となっていることを願っています。

私たちはそれぞれの事業を行うに際して、未熟でした。より大きな効果を得る方法はあったはずですが。私たちの想いが結果に十分に表れなかったこともあったでしょう。

しかし、その想いを感じてくれた方も少なくなかったと思います。また未熟ながらも担当させていただいた私たちも、少なからず成長させていただきました。今後につながる種はまけたのではないかと思います。

最後になりますが、事業にご参加いただきました皆様、支えていただいたメンバー、ご指導いただいた副理事長、そして力を発揮してくれた委員長をはじめとする委員会メンバーに感謝申し上げます。

今年は初めて常任理事という役職を頂きました。今まで私から見た室長というイメージはあまり忙しくなさそうに見えておりましたが、実際に経験してみて非常に大変な役職だと実感しました。(私のやり方が悪いのかもしれませんが・・・)

特に両委員長や委員会メンバーの思いをうまく上役の皆さんにお伝えすることが出来ず、当初の事業計画を途中で変更したり、自分の力無さを痛感する一年でありました。

しかし、両委員長の頑張りのお陰ですべての事業を無事終わらせる事が出来て、今はホッとしております。特に森永先生をお呼びした10月例会、そして小学生の親子を対象にした食育事業の11月例会は今後継続させることによって、地域に浸透し集客も増えていくと思いますので、鶴岡JCで次年度以降も継続して頂きたいです。

そして、昨年に引き続き一緒に活動してくれた小池副理事長と堀委員長を初めとする地域コミュニティ委員会の皆様と叶野委員長を初めとする青少年委員会の皆様、本当に一年間ありがとうございました。

JC交流室 室長 渡 辺 孝 之

「地域に和を創造しよう」2009年度理事長のスローガンにありました。それぞれに考えがあると思いますが、JC交流を通し「和」を築くよう邁進してきました。3LOM合同例会に始まり、第42回ブロック会員大会、鶴岡PR事業、卒業式と事業を通し様々な人と交流を深めることができました。それから、忘れてはならない鶴岡JC野球部、初のブロック大会出場と結果は厳しいものとなりましたが、今後の鶴岡チームの活躍に期待したいものがありました。自分たちから積極的に行動することにより、一つ一つの活動が魅力的になってきます。一年間ありがとうございました。

事務局長 筒 井 重 浩

昨年、佐藤智信理事長から『事務局長をしてくれないか』とお電話いただき、『少し考えさせてください』とお返事したのですが、『じゃ3分待つ』と言われ、しかも『返事ははい、カイエスだけだからのお』と。

それまでの智信理事長の印象は、とても温厚な“スマイル王子”だったのですが！

そんな感じでスタートした2009年度事務渉外室、そして事務局長。

あれから1年。。。

ずばり、本当に楽しかったです!!

そのすべての源を作っていたいただいた智信理事長に心から感謝申し上げます。

3年目の初常任を、その天性の大らかさで見守って頂いた菅原専務理事、事務方NO1、何でも完璧にこなす和田委員長、委員会の「和」を取り持っていたいただいた菅原副委員長、本当にありがとうございます。

そして貴重な時間とお金を費やし理事長を支えていただいた委員会メンバー全員に感謝と敬意を表します。

さて事務局長職は、といいますと。

委員長・副委員長があまりに優秀でしたので、事務的なことはほとんどおまかせで、楽をさせていただきました！

そんな感じで未だに事務局長の職務が何たるかに確信は持てません・・・

ただ1つ、事務局はLOM内外のことを見聞する機会に恵まれますので、おススメです。

また日本JC三大大会には、ぜひ一度参加してみてください。

京都会議・サマコン、そして卒業式がある全国会員大会。それぞれの面白さがあります。

以上でございます。

事務渉外委員会 委員長 和 田 伸 一

2009年度、事務渉外委員会には17にも及ぶ職務が与えられました。

日々のJC運動・LOM運営に欠かせない事柄など、様々な時系列や難易度のものに対応しなくてはなりませんでした。

私たちの委員会メンバーは一年間を通しこれらの課題に立ち向かう中で、多くの人との新しい出会いに恵まれ、そして多くの新しいことを見つけ出すことができたと思います。

またこれらの経験があつてこそ、担当例会である9月第一例会「アニュアルレポートミーティング」では山形ブロック協議会ブロック進化創造委員会のご協力を仰ぐことができ、それにより例会を形作ることができたと思っております。

お互いが触発し合い日々楽しみ、時にもがきながらやってきた事務渉外委員会という田んぼにこの秋、私は多くの実りを確認できました。委員会メンバーには感謝の言葉しか浮かびません。皆さんお元気で。

事務渉外委員会・副委員長を拝命し、希望と不安を胸に抱きながら活動してきたこの一年は、私にとって非常に充実したものとなりました。

しかし、年頭においては、総務渉外業務を含めた膨大な職務を、少ないメンバーで本当に遂行できるのか？また、初めての理事という立場でLOMのスムーズな運営に、果たして寄与できるのか？と心配ばかりしていましたが、委員長の強力なリーダーシップと、セクレタリーの皆様のバックアップのおかげで、大過なく務めることができたと思います。

また各種行事へ参加する機会を多数頂き、全く経験したことのない「新たなJC運動」の発見もありました。本来の役割としては、理事長ならびに専務理事が職務に専念できるように後方支援を行うことでしたが、それと同時に様々な同志との交流を深めることができ、今後の活動の大きな支えとなったことは言うまでもありません。

理事長が掲げる「和」というスローガンのもと、委員会メンバーが一致団結して、切磋琢磨しながら活動してきた結果が、円滑な事務渉外業務に繋がり、委員会テーマでもある、「和をもって楽しく、そして実りあるJC運動をみんなで創造しよう。」ということの達成と自負しております。

最後に、不行き届きな点も多々あったかとは思いますが、共に活動し、支えて頂いたLOM運営グループの皆様に感謝するとともに、ご協力頂いたLOMメンバーの皆様に、謹んで御礼申し上げます。

広報委員会 副委員長 上 鉢 功 一

今年度広報委員会では地域と鶴岡JC、そしてメンバー同士を繋ぐ役割を担おう！をテーマに掲げて活動して参りました。

ホームページでは年度当初から置き更新も送れ皆様には大変ご迷惑をおかけしましたが、なんとか形にすることが出来ました、また広報誌も鶴岡青年会議所の事業を内外にPRできたと思っております。

担当した4月例会では理事会の上程では苦労しましたが木村委員長が大変頑張り公開例会としてはいい例会になったと思っております。

広報委員会全体としては各事業への委員会の出席率が悪く予定者の時点でもう少し交流を深めておけば良かったのではないかと残念でなりませんがこの経験を活かして次年度も活動して行きたいと思っております。一年間ありがとうございました。

政策委員会 委員長 齋 藤 亮 一

2009年度社団法人鶴岡青年会議所理事長のスローガン「和」にいかにして答えを見出すか？

政策委員会として、地域にどのような「和」を創造しようかを考え、邁進してきた一年間でした。3月に「防災」をテーマとした公開例会を開催しました。鶴岡市の協力の下、「TADS ネット」（災害支援ネットワーク）と関連性を持たせた形で、自主防災の大切さ、身近に潜む危険を体験していただくとともに、鶴岡高専澤教授による専門家の意見と、被災地である栗原青年会議所直前理事長の貴重な体験談を頂きました。8月には特別事業として衆議院議員選挙（山形3区）の公開例会を企画開催し、酒田・庄内中央・新庄の4つの青年会議所共催という形で地域に選挙の重要性を訴えました。9月には鶴岡市の新しいリーダーを決めるためにマニフェスト型の鶴岡市長選挙公開討論会を開催いたしました。選挙への市民の関心や意識を高めるべく、投票率の向上に少しでも役に立つことが出来ればと広報活動を行った結果、立候補予定者の政策や人柄を間近に伺うことができ、有権者の方々が投票への判断材料とすることが出来たのではないかと考えます。委員会メンバーが「和をもって尊しとなす」というテーマで一致団結し、地域の和、心の和、JCの和をもって「街づくり」に取り組んで参りました。初理事・初委員長という大役に副委員長をはじめとする委員会メンバーがバックアップして頂いたことに大変感謝しております。今年度で得た経験を生かしてまた新たな活動にチャレンジして行きたいと思っております。一年間ありがとうございました。

青少年委員会 委員長 叶 野 孝 志

今年度、青少年委員会では「5月例会わんぱく相撲鶴岡・田川地区大会」、鶴岡が主管LOMとして開催された「第17回わんぱく相撲山形ブロック大会」、昨年に引き続き行くことができた両国国技館での「第25回わんぱく相撲全国大会」、そして何より今年度最大の例会となる「11月公開例会（食育事業）」の方を担当させていただきました。それぞれを振り返ってみると、私委員長がさまざまな場所でメンバーの皆様や外部協力者の方に、ご迷惑をおかけしたと思っております。しかしながらそういった方々の、愛あふれるご指導とご協力がなければどの事業も成り立たなかったと、思っております。

委員長二年目にしては、まだまだ成長が足りない部分もあると思います。そういった部分に関して今後とも、メンバーや外部協力団体の方々のご指導を受けながらこれからもっともっと成長していきたいと思っています。最後に、一年間ご協力いただいたメンバーと外部協力団体の皆様、本当にありがとうございました。

青少年委員会 副委員長 齋 藤 孝 一

今年度は理事としての役目を頂き、青少年育成事業担当の委員会の副委員長として活動させていただきました。

わんぱく相撲では地区大会に続きブロック大会主管もあり全国大会が終わるまで慌しく過ぎていったように思えます。わんぱく相撲地区大会は昨年も担当しましたが改めて指摘されて気付く部分も多かったと思います。小学校側の協力もあり例年参加者が多く、こうした連携を他の事業でも活用していければと思います。ブロック大会は5年振りの主管ということで1月と7月の運営協議会の開催、例年来賓として親方を呼んでいることへの対応、当日の運営にとにかく試行錯誤の連続でした。全国大会では鶴岡チームの選手は昨年参加した児童がまた代表になったこともあり、委員会メンバーもいつも以上に思い入れがあったように感じました。青少年育成事業としてわんぱく相撲は今後も続けていければいいと思います。

11月の食育事業公開例会は事業内容、講師選定、外部協力団体との連携、公募メニューコンテストの募集、会場設営等々やるが多かったのですが、終わってみるともっと効率的にできたのかと反省することが多々ありました。今後もこうした大規模な公開例会を開催する機会が多くなるとは思いますが、これまでの事業での積み重ねを有効に活用できるような仕組み作りができればさらに良い事業ができるのかと思います。

小池副理事長、今間室長一年間大変お世話になりました。叶野委員長一年間お疲れ様でした。

地域コミュニティ委員会 委員長 堀 愛 彦

今年の地域コミュニティ委員会は1月例会と10月例会を担当して、特別事業として7月の認承証伝達式、その他の事業として天神祭り・七夕献血を担当しました。一年を通して常に活動していたという感じです。

理事は昨年経験しましたが、委員長という役職は初めてでわからない事ばかりで戸惑いの中スタートしました。よく委員長はJCの中で一番面白い役職だと言われますが、実際やってみると最初は戸惑いもありすべての面で大変でした。その中で事業を作り上げて行き、今まで経験した事がない事を経験でき、とてもつらかった事が多かったのですが、この一年で自分自身大きく成長できたと思います。また委員会メンバーにも恵まれて、自分ひとりの力は小さくても、みんなの力を合わせればとても大きな力となり、いろいろな人に支えられた一年でもありました。委員会活動に携わったすべての人に感謝の気持ちでいっぱいです。今ここで一年を振り返れば委員長を引き受けて本当に良かったと思っています。

地域コミュニティ委員会 副委員長 齋 藤 泰

今年度、初めての理事という立場という立場になり、JC活動について色々と考えさせられることが多く、一年だったと思います。特に理事会に出席し、他の常任理事や理事の方々の上程や、話を聞き、本当にそれぞれがこの地域に対しての思いがあり、事業を成し遂げているのだということがわかり、尊敬しました。私は、正直なところ自分のことで日々精いっぱいの部分が多く、あまりそこまでは出来なかったかもしれません。ただ、以前とは違い、一つの事業がそれだけの思いがあって作られることを知り、今まで以上にいろいろな事に参加するようになりました。参加しなければわからない事も多くあり、自分にとっていろいろと刺激になったことも多くあり、メンバーそれぞれが頑張った事がそれぞれに糧となって返っていき、成長していく事を実感しました。最後に当委員会の運営にあたり尽力頂いた、堀委員長、委員会メンバー、サポートして頂いた小池副理事長、今間室長はじめ、全ての協力して頂いたメンバーに感謝申し上げます。本当に有難う御座いました。

交流委員会 委員長 三 浦 成 希

2月例会では遠方での開催にも拘らず、沢山のメンバーの方々からご参加いただき誠にありがとうございました。自分一人ではなく沢山の方々に支えられて鶴岡青年会議所の事業が成り立っているんだなあと、あらためて感謝する1年でした。委員会のメンバーや室長、副理事長、自分の努力不足を時間のないなかご協力いただきありがとうございます。今年1年で様々な見方が出来るようになったのもこの人たちのおかげです。来年も和の精神を忘れることなくがんばっていきます。これからもご協力お願いします。

理事予定者～理事になって1年以上たちました。思えば長かったですし、大変なことが多かったのですが、自分なりに「なんとかできたかな?」というのが正直な感想です。委員会テーマ（おもてなしの精神で、心と心の和を繋ごう～楽しみ、そして心に刻まれる交流～）を1年間通して少しは達成し、身に付いたと思います。また、地域を良くしようと頑張っている多くのメンバーと交流できたことが大きな財産となりました。そして、精神的に安定感のない私が1年間乗り越えられたのは、副理事長をはじめ、室長、委員長、委員会メンバーに支えてもらえたからだと思い感謝しています。この経験を今後に生かしていきたいです。ありがとうございました。

会員大会支援委員会 委員長 小 林 範 正

会員大会開催という記念すべき年に大会運営サイドの委員長という役職を担い、個人として非常に貴重な経験、且つ成長させていただいた機会くださった理事長に感謝申し上げます。

15年ぶり会員大会主管するにあたり、そこで目指したものは会員大会を作り上げていく過程において多くを知り、多くの気付き感動を経験しメンバー一人一人から「新しい鶴岡」の創造していただくということでした。大会を終え、メンバーの皆様へ何かしらの気付きであったり、挑戦であったりしていただけたと感じております。

青年会議所としてのスローガンは単年度のものですが、この大会で掲げた「天性開花」～自己進化への挑戦～は、端に大会だけのスローガンとしてではなく、JCのみならず会社であったり、家庭であったり人生であったりどの場においてもスローガンとなる言葉であると考えております。今年度のみのスローガンとしてではなく、市民意識変革運動の先駆者としてこのスローガンをもちつづけていただければと考えております。

まずは、1年間ご協力いただきましたこと心より感謝申し上げます。

会員大会支援委員会 副委員長 松 田 博 美

今年、会員大会支援委員会は山形県各地への会員大会のPR事業、6月例会として羽黒山で行われた決起集会、そして7月に行われた山形ブロック協議会会員大会鶴岡大会の運営を主な事業といたしました。それぞれの事業にいろいろな思い出があります。

まずはPR事業。山形県各地で行われる会員会議所や、周年事業、公開例会などでお時間をお借りして会員大会のPRをするのですが、何時間もかけて車で行って、PRの時間はたった5分…。などそういう過酷な状況でしたが、他の委員会のご協力も得て、山形県各地をまわらせて頂きました。PR時間に遅刻して工藤担当副理事長からいきなり説教をくらったのもいい思い出です。今思えばあの車中でメンバーの結束が固まったのかなと思います。

次に6月の羽黒山での決起集会。実は私自身小学校の遠足以来羽黒山には登った事がなかったですし、お恥ずかしながら羽黒山についてまったく知識がありませんでした。この6月例会を担当するにあたり、羽黒山の事を勉強しましたし、また打ち合わせで何回か羽黒山にお伺いしましたが、大人になってから行く羽黒山は子供の頃とまた違ってとても魅力のあるところでした。7月の会員大会の準備で大変なさなか行われた例会でしたが、よい年（丑年ご縁年）によい場所で決起集会が行われたと思っております。実はその後、今年個人的に2回も羽黒山に登りました。

そして本チャンの会員大会鶴岡大会。私の担当は式典でした。ブロックの委員会の事情により、式典のすべてを鶴岡サイドでほとんど運営しなければいけない状況になり、かつ司会を仰せつかり大変でしたが、式典の中のほらがい、習字、太鼓をすべてメンバーで担当して披露できたところが鶴岡メンバーのすごいところだと改めて感じました。メンバーの皆様、ご協力本当にありがとうございました。

最後に、7月までの連日連夜過酷な作業を乗り越えられたのも、委員会メンバーのおかげです。

心がくじけそうになると、周りの委員長をはじめとする委員会メンバーが私以上に頑張っていて、私だけくじけている暇はないんだといつも気づかされました。

本当に工藤担当副理事長はもちろんの事、渡辺室長そして委員会メンバーには助けられました。ありがとうございました。一年間会員大会支援委員会として活動して本当に良かったです。

打ち上げで食べた米沢牛、おいしかったです。

2009年度（社）鶴岡青年会議所まずは、理事長、専務はじめ副理事長の皆様一年間お世話になりました。そして、理事の皆様各担当事業の企画・運営お疲れ様でした。各委員長をフォローしていただきました、委員会メンバーの力強いバックアップありがとうございました。

日本一花火委員会、そして第十九回赤川花火大会実行委員会におきましては皆様からの出向と一年間を通してのご理解ご協力いただきました事心から感謝申し上げます。また、委員長という大役を通してJC活動の深さをあらためて認識させられました。担当副理事長、室長、副委員長、委員会メンバーと本当に人から助けられ恵まれた一年であったと思います。言葉だけでは表されない皆様への感謝の気持ち残されたJC活動で少しでもお返ししていければと考えているところで御座います。

「感動日本一」赤川花火大会万歳!! ありがとうございました。

おそらく花火には関わることはないだろうと思っていた私が副委員長として赤川花火大会に携わることになるとは思ってもいませんでした。

第十九回を数えた赤川花火大会はその歴史や伝統が様々な柵を乗り越えたところに存在し、LOMを超越して地域の一大イベントとして定着しています。

その赤川花火大会を「市民の喜び、地域の誇り、安心快適な笑顔 あふれる日本一の花火大会」にする為に、1年間数多くの方々と共に創り上げていけたことは私の財産となりました。

一人では出来ないことがみんなで力を合わせれば前に進めることが出来ることを知ることが出来ました。

感動日本一を目指し、安全・安心・快適な大会にする為に、何が出来るかを自問自答しながらやってきましたが、最後に残ったのは感謝の気持ちでした。

副理事長はじめとし一緒にがんばってきた委員長そして委員会メンバー、実行委員会で共に行動させていただいた全ての方々、そして赤川花火を見てくれた全ての人に感謝・感謝・感謝です。1年間本当にありがとうございました。

今年度は初理事であり、日本一花火委員会副委員長という重責を頂き大変充実した貴重な一年を過ごすことが出来ましたことにまず感謝いたします。

来年で第二十回記念大会を数え、これだけの規模となった赤川花火大会に関して殆ど知識も無い状態からという不安要素満点のスタートでしたが、今まで築き上げてきた歴史と諸先輩方、現役メンバーからの温かい指導、支えのお陰で無事花火が上がる場所にいられたことを大変嬉しく思っています。有難うございました。

この一年間想像以上のことに戸惑うこともありましたが、最初の花火が打ち上がった時の感動は忘れ難いものになりました。

最後になりますが、皆さん1年間有難うございました。結城委員長お疲れさまでした。

「監事なんて自分の柄じゃない」なんて思いながらも、引き受け、やっと何とか一年が過ぎたというか、「終わった」と言うのが、今の率直な気持ちです。話下手の私には、監事講評は、大変プレッシャーのかかる事でしたが、その都度その都度一生懸命にやったつもりです。一方では、今までとは違った視点から鶴岡JCを客観的に見られたことは、12年目にして大変刺激的でしたし、ある意味楽しませて頂きました。個人的には、解かってもらえるように話をすることの難しさ、そして、何よりも話を聞いてもらうことの大事さがつくづく身にしみた一年でありました。

監事の仕事を出来たのかは?ですが、神林監事の名（迷）講評にも助けられ、理事長や理事の皆さまには、耳ざわりな事を言ったりしたかも知れませんが、色々な場面でどう振舞えば良いのか、考え悩みながらも楽しく仕事が出来ました。ありがとうございました。この一年間で、気付いたこと、学んだことが、山ほどありました。

最後になりますが、まだ卒業しません!来年も、少しでも成長できるようがんばりたいと思います。一年間、本当にいたらない監事ではありましたが、ありがとうございました。これからもよろしくお願いします!

私が入会した翌年の12月例会～卒業式～で、ある卒業生が「私は監事をやってみたかったんですが出来なかったので、ここで卒業の挨拶として監事講評させてもらいます」と挨拶されたのを見てから、監事という役職に関しては非常に興味を持って見ていました。

全員が襟を正し、講評を聞く。青年会議所の役職の中で別格の存在感示す監事という役職を一度はやってみたいと思う様になっていました。

本年一年、監事をやらせて頂き、何度も監事講評をやらせて頂きました。

入会以来、ほとんどの年で理事、常任理事として忙しく事業に関わってきましたので、三役や常任理事会のみならず、委員会活動にもほとんど関わらずに理事会や例会に参加する事がとても不思議な気持ちでした。半分、傍観者の様な、参加者の様な・・・そんな立場で会議や例会をみると、今までと違った視点で物事が見えたような気がします。

だからこそ、監事講評で一会員、一市民の観点で講評が出来るのかもしれない。

今年の監事は佐々木一広君と私の2人体制でしたが、佐々木君は理事長経験者で私は未経験者。

やはり講評も若干違う内容であったと思うし、私はより一会員の視点にたった意見を投げかけたり、説明をいれた講評をしたつもりです。

今後、公益法人に移行して行くにつれ、更に監事の使命は大きなものになります。

ある意味理事長と同様にLOMを見て、事業監査に会計監査を行う事が要求されます。

であれば必要に応じて理事会でも発言することだけでなく、常任理事会や委員会にもオブザーバーとして出席をすることも場合によっては必要であると思います。

より広い視点で、講評すること以上にきちんと議論をし、きちんと良い方向に向かったか見届ける。

そんな行動する監事が要求されてくると感じております。

各々が一会員でJAYCEE。変革の時代の責任世代として自覚をもった考えと行動が求められます。

その象徴としての監事であって欲しいと願います。

監事講評で傷付いた方や腹が立った会員もいたかも知れませんが、前述の思いで全て話したこと。人間、神林ではなく監事、神林が述べたこと。悪しからずご了承下さい。

一年間お世話になりました。

—— 出向者報告 ——

社団法人 日本青年会議所 総務グループ JCガバナンス確立会議 副議長 恩 田 健 次

まず始めに、共に出向していただきました富樫幸衛幹事を始めとするメンバーの皆様に感謝申し上げると共に、拙い副議長職であったことをお詫び申し上げます。

出向させていただきました、JCガバナンス確立会議は、これまで行なわれてきた組織進化の総まとめを行い、日本JCとしてのガバナンスを確立させる使命がありました。その中で最終的に「日本JCコーポレート・ガバナンス」を作成し、外部へ向け発信することが出来ました。このことは今まで以上に社会からの信頼を得ることが出来るできるものと確信しております。

日本JCに出向して本当に良かった。これが今感じている全てです。JCは一生懸命やればやるほど自身に返ってきます。多くの学びや気づきを得ることが出来ました。今年であった日本全国の友を大事にこれから益々精進していきたいと感じています。

出向させていただきました、佐藤智信理事長に感謝いたします。ありがとうございました。

社団法人 日本青年会議所 総務グループ JCガバナンス確立会議 幹事 富 樫 幸 衛

今回が社団法人日本青年会議所への初めての出向で、分からない事も多かったのですが、大変に有意義な出向となりました。JCガバナンス確立会議の活動内容としては、1月の京都会議においては日本JC本会と協議会が連携しJC運動の価値の最大化を目指すための「JCガバナンス確立」セミナーを開催しました。7月のサマコンでは、公益法人制度改革を背景に、各協議会が組織運営をしている中で現在生じている諸問題に対応するため「組織進化とガバナンス確立に向けた相談スクエア」を設置し、相談会を行ないました。また、毎月行なわれるブロック会長会議において、リアリティと説得力を持ち合わせた機能確立における意見交換会を実施しました。また、2010年度以降、更なる社会からの信頼と負託に応える為、組織の運営をわかりやすく示したツールとして冊子「日本JCコーポレート・ガバナンス」を策定しました。さらにLOM、各協議会出向者、日本JC出向者向けに、日本JC組織進化の歴史やガバナンスの必要性をわかりやすく説明するためのパワーポイント「日本JCガバナンスプログラム」を策定しました。最後になりますが、今年一年間、一緒に当会議体へ出向した4名のメンバーに感謝申し上げます。

社団法人 日本青年会議所「真日本建国」創造会議 委員 草 島 孝 志

卒業を控えたJC最後の年に日本青年会議所へ出向する機会をいただき、心から感謝しております。とりわけ筆頭会議体である「真日本建国」創造会議の一員として活動させていただいたことは、私にとってなにもものにも代えがたい貴重な経験となりました。

全国各地から参集した優秀かつ高い志を持ったメンバーとさまざまな意見を交わし、真摯な議論を尽くして友好を深めていくなかで、私自身も成長することができました。京都から始まり、サマコン、沖縄全国大会でのメインフォーラムの担当、総仕上げとなる「真日本建国」創造に向けた国民意識醸成のための発信媒体の発行など、日本青年会議所ならではの活動を通じて、日本人としての自覚や未来の世代のために何をなすべきかなど、生涯にわたる大切なテーマを見つけることができました。

思うに、これら日本青年会議所の諸活動は、地域に根ざした地道なLOM活動が土台となって、はじめて日本全国に波及する大きな成果へと結実するのではないのでしょうか。その意味からも、多くの若いメンバーにも参加していただき、その経験をそれぞれの地元を持ち帰ってLOM活動に活かしていただきたいと念じています。

そうすることが、日本にとっても、地域にとっても有用な人材を輩出する王道になるとの確信を持ちました。

そう言いながら私自身卒業ということで、その経験を少ししかLOMに還元できないことが何よりも心残りですが、卒業後も公私にわたり青年会議所OB、サポーターとして、日本のため地元・鶴岡のため、今回の出向の成果を、微力ながら傾注していきたいと考えています。

魯迅の言葉に「最初から道があるのではない。だれかが荒野に足跡を残し、多くのものがそれつづくから荒地が踏み固められ道となるのだ」とあります。私も、日本青年会議所という大道に確かな足跡を残せたかどうかいささか心もとないところではありますが、後に続く内外の若い世代の指標となっていこうと、出向を通じて決意を新たにしました次第です。

一年間、私に社団法人日本青年会議所という非常に広いフィールドへの出向をさせていただきました事、そして力強く温かいバックアップをしていただきました佐藤理事長を始め鶴岡JCメンバー皆様のご厚意に、深く感謝を申し上げます。

初の日本JC出向でJCガバナンス確立会議へ恩田副議長、富樫幹事、相馬委員、中村委員と私の計5名での出向でした。会議時の厳しさと会議以外の楽しさを極端に兼ね備えたものでした。全国各地から集まったメンバーとの交流は幅広く、色々な方々に様々教えていただき、必ず大きな得るものがあった素晴らしい場所でありました。

11、12月の終盤になってからは次年度の地区役員出向先との会議が重なり、出席できず残念な気持ちで一杯ですが、今年この会議体に出向していなければきっと次年度の出向にチャレンジする気にはなれなかったと思います。出向＝大変（辛い、面倒、お金がかかる）と思われますが、出向先で積む経験は地元で活動するだけでは得られない、自分の「ちから」へと生るはずです。

最後に、鶴岡JCメンバー皆様に、2009年度日本JCへの出向をさせていただきました事を改めて感謝申し上げ、私の出向報告に代えさせていただきます。

本当にありがとうございました。

コーポレートガバナンスを企業が声高に言い始めてから、まだそれほど長くはありません。これは日本ではマイナス要素を打ち消すために表に出てきた面がありますが、ガバナンス自体は目的達成のための組織強化としては、重要なファクターです。

8つのグループと組織の中に33の会議、委員会などを抱え、下部組織として地区協議会、ブロック協議会を抱える巨大組織である日本青年会議所も同様で、さらには単年度制という環境の下では、ガバナンスの強化は青年会議所活動の効果の増強には必須のものとして、ガバナンス確立会議は設置されています。

この会議体に出向させていただくことは、私自身にとってまたとないチャンスでした。しかしなかなか会議に参加できず、チャンスを生かすことが十分にはできませんでしたし、また会議体のメンバーにもご迷惑をおかけしてしまいました。

そんな中でも会議に出席させていただき、ガバナンス確立へ向けたプロセスを目の当たりにできたこと、全国のメンバーと交流させていただいたことは何よりの財産です。これをLOMにつなげていくことが、今後の使命と感じています。

今年度の東北ゼミナール委員会では、東北に生きる青年としての英知と勇気と情熱を傾け、東北地区が抱える地域課題に対して真正面から向き合ってきました。それらを実現させるためには、友情という心の絆で結ばれ知行合一を兼ね添えたJAYCEEとしてスキルアップしていくことが、JCの価値の向上につながり、地域へ還元、国益に貢献できる「つよい東北」を創造できると思いました。

事業計画：

- 1、国益に寄与できるつよい地域づくりの研究と推進
- 2、「東北版ローカルファースト」としての地産地消の検証と推進
- 3、ASPAC長野大会への参画による「B-プロジェクト」の企画と発信
- 4、開校式・委員会・閉校式の各開催

実施内容：

- 1、東北各地域における地産地消意識調査。
- 2、「美人すぎる議員」八戸市藤川優里議員との八戸研修バスツアー。
- 3、ASPAC長野大会ブース出店（餅つきで祭りの雰囲気を出す・東北各県特産品をトッピング）
- 4、農家の実態調査・新規産業を探る。
- 5、東北青年フォーラム分科会開催（寸劇による農家の現状）
- 6、委員会開催（合計9回）

今年度、山形ブロック協議会に入会3年目で実績も無く卒業年にも拘らず、理事長をはじめとする皆様のご協力とご厚意のもと塾長として出向させていただきました。県内17会員会議所のご協力のもと総勢64名のアカデミー委員会メンバーをご輩出いただき、「自律した説得力あるつよいJAYCEEの育成」を主テーマにつよいリーダー、つよい青年経済人を目指し、「ビジュアル」「つよさ」「先見性」「カリスマ性」の四つのサブテーマを立て私は「つよさ」と「カリスマ性」を担当し、委員会セミナー事業を行ってまいりました。

なかでも、1月31日寒河江市ホテルシンフォニーアネックスでの開校式においては安里会頭による新春記念講演会もあり、我が鶴岡市羽黒町にて本当のつよさを知るための山伏修行を5月16、17日と2日間に渡り開催実現できましたが、心残りは委員会メンバーの出席率が悪く熱い想いのものだけでは限界も感じ難しさ痛感し良い経験となりました。

最後に私が塾長になれたり各地でのセミナー開催等人との繋がりにより実現できた事でアカデミー委員会は人との繋がりを広める上で大変良い場であります。来年もアカデミーに出向される方は一回出て無駄、無意味と言わず全部出てから決めましょう。

必ず何かを得て今後の人生にそしてLOMだけでなくブロックの中でも力を発揮されると思います。

2008年度に委員として出向させていただいて、アカデミー生として多くのことを学ばせていただき、今年はアカデミー委員会幹事としてアカデミー委員会の裏方として、佐藤洋行塾長を支えるべく2年続けての出向となりましたが、委員長、塾長を他のスタッフと共に支え合いながら、アカデミー生とともに学ぶことが出来たことはかけがえのない経験となりました。

幹事としてアカデミー生に正確かつ興味を持ってもらえる情報の提供を心がけてまいりましたが、参加率の向上に直結させることの難しさを実感しました。

言葉だけでなく気持ちや情熱を熱意をもって伝え続けることの大切さを学ばせていただきました。

閉校式でアカデミー生の笑顔スタッフと一緒にいることが出来たのが何よりの喜びとなりました。

出向させていただいた理事長はじめとするLOMの皆さまに心より感謝いたします。

今年度 山形ブロック協議会 会員大会運営委員会に副委員長として出向させて頂きました。

今年の会員大会は15年ぶりで鶴岡の地で行われた事もあり、非常によい機会に出向というチャンスを頂き、佐藤智信理事長には非常に感謝しております。ありがとうございました。

毎年、主催地（LOM）から会員大会の副委員長をブロックに出向させるという事になっており、副委員長は主管側（ブロック）と主催地側（LOM）との円滑剤の役割を果たさなくてはならないのですが、私はブロック側とLOM側の温度差に非常に苦労いたしました。ブロックでは副委員長という立場を踏まえて行動したつもりでしたが、終わった今となっては思った事を副委員長だからという事で遠慮する事なく、意見するべきであったと後悔しております。

また作業を進めていく途中、これはLOMとしての立場なのか、ブロックとしての立場なのか自分の立ち位置がわからなくなってしまったりすることが多々あり、一緒に出向してくれた佐藤康之君、斎藤史裕君、長谷川豪君にはご迷惑をおかけしました。そしてこの3名からはいつも内陸まで運転してもらい、本当に感謝しております。夜の112号線を通るたび、何回も内陸まで通つめたあの日の事を私は思い出します。

そして最後に今回出向してみてもあらためて鶴岡JCの素晴らしさを再認識しました。皆様も自分と鶴岡JCに自信を持って、機会があれば出向する事をぜひともお勧めいたします。一年間ありがとうございました。

入会3年目にして今年度初めて板垣副会長のいる山形ブロック協議会へ出向させて頂きました。鶴岡JCの中での考え方、事業の考え方に慣れていたこともあって、他LOMの方の考え方や視点に多くの刺激を受けることが出来たことに大変感謝いたします。

「ふるさとOMOIYARIプロジェクト」や「45000人必達プロジェクト」の支援・協力と1年を通しての活動となりましたが、LOM活動と重なり委員会に出席出来ないこともありましたが、多くの学びの場を与えて頂きありがとうございました。

平成21年1月31日のアカデミー委員会開校式に始まり、計6回の委員会が実施されました。

① 平成21年1月31日(土) 寒河江市

第1回「アカデミー委員会開校式」

② 平成21年3月7日(土) 天童市

第2回「ビジュアルセミナー」

セルフプロデュースするには、自身のウイークポイントを十分に把握することが大切であることを学びました。

③ 平成21年5月16日(土)・17日(日)

第3回「山伏修行体験」鶴岡市

山伏修行体験を通じて、委員会メンバーの連帯感向上を図ることが出来ました。

④ 平成21年8月1日(土) 米沢市

第4回「先見性を養うビジネスセミナー」

私は、都合により参加出来ませんでした。

⑤ 平成21年9月5日(土) 新庄市

第5回「優れたリーダーと優れた青年経済人を育成するセミナー」

経済人としての心構えや、経営に必要なものを具体的に学ばせて頂きました。

⑥ 平成21年10月24日(土) 山形市

第6回「アカデミー委員会閉校式」

1月31日の開校式に始まり、あっという間に閉校式を迎えた感じがします。

今回学んだ経験を活かし、自立した説得力あるつよいJAYCEEを目指して、更に邁進する所存です。

今年度、先輩達からアカデミー委員会とはとにかく楽しい所だ、絶対に参加した方がいいなど様々なお話を頂きまして、アカデミーってどんな所?興味本意で出向させて頂きました。

前年度、鶴岡より出向した4名が、皆勤賞だというプレッシャーもありましたが、土曜日の開催が多く仕事の都合上、残念ながら6回開催中4回だけの出席でした。

参加したことで、会頭の現在までの生きざまを恥じる事無く生の声で聞いた事、講師の様々な考えを聞いた事、運営して頂きました方々の熱い思い、他のLOMメンバーとの交流、一緒に出向した当LOMメンバーとの益々の交流、大変に貴重な経験をさせて頂きました。

今後の、JCライフ、そして仕事に繋げて行きたいと思います。

最後に、出向させて頂いた佐藤理事長、佐藤委員長はじめ運営して頂きました方々に、心より感謝したいと思います。

ブロック進化創造委員会では4つのメイン事業があり、本当に委員会としては内容盛り沢山で色々な調査や、お手伝い、経験をさせて頂きました。

委員会立上げの時は、若い委員長にベテラン委員メンバー揃いで、一見まとまりにくそうかなと思いましたが、毎回活発な意見交換が行われ、副会長・委員長は素早い対応でテキパキこなし、幹事の対応もよく素晴らしい委員会だったと思います。

青少年ボランティアネットワーク支援では、鶴岡を担当しましたが思うような結果が出せず、今後LOMで近いような内容の事業が行われる際には、今回の反省点を活かしたアドバイス等できるかと思います。

公開討論会の支援も、各エリアやLOMで行われましたが、毎回街宣車での広報活動を行って来ました。大変貴重な経験だったと思います。

最後に、委員会会場・懇親会会場は、担当副会長の保育園で行ったり、幹事のお寺で行ったりと、ゆりかごから墓場まで色々な場所で行われ、鶴岡には無いカラーを満喫できて、思い出に残る出向経験をさせて頂きました。

去る7月12日、グランドエルサンに於いて社団法人日本青年会議所東北地区山形ブロック協議会 第42回会員大会鶴岡大会が執り行われました。

今大会は、15年ぶりの鶴岡開催ということで、天性開花～自己進化への挑戦～をスローガンに掲げ、メインフォーラムでは、「個」が つよくなければ、つよい「組織」などつukれないという信念を持ち、可能性へ挑戦し続けられている平尾誠二氏を迎え公演をして頂きました。多くの一般市民に参加していただき、JC活動を理解していただいた大会になったものと考えます。

最後になりますが、このような貴重な経験をさせていただきありがとうございました。今後は、この経験が無駄にしないようJC活動に邁進する所存でございます。

—— 卒業にあたって ——

小 池 信 治

「鶴岡青年会議所？」平成9年に帰郷してまもなく、OBの尾形幸一先輩から入会をすすめられました。名前は聞いておりましたがこの会がどういう会なのか、その時はわかりませんでした。JCを全く知らず、先輩の勧め（命令？）に二つ返事で了解したときから、私の永いJCライフが始まったのです。当時28歳でした。

気分は新入社員のごとく、初めての配属先[地域主権委員会]では副委員長に任ぜられましたが、失敗と反省の繰り返しでした。委員会メンバーの先輩諸兄から大目玉をくらったこともございました。しかし、その委員会での経験はすばらしいものでした。まさしく、JCとは何かという部分を、自らに厳しく行動で示してくれた委員会の先輩から教えていただきました。今でも忘れられませんし、本当に感謝しております。

鶴岡青年会議所は奉仕・修練・友情というすばらしい三信条を基本に、これからますます地域にとって必要とされる団体になると私は確信しております。又、真に必要とされる団体に成り続けなければならないとも思います。

最後になりましたが、故郷鶴岡を愛する皆様に「元亨利貞」という言葉を送ります。

これはある会社から故郷鶴岡から送られた書で、中国古事だそうです。意味は“正しい操を守りながら積極的な徳を行えば、どこへ行っても万事がうまくいく”という意味です。

後輩となる皆様には是非精進していただきますようお願いいたします。永い間本当にありがとうございました。

佐 藤 裕 宣

平成13年に入会し早くも8年の月日が流れ、とうとう卒業の時が来ました。

仕事をひと段落させ、何を書こうかと考えていると、この8年間の様々な思い出が蘇って来る、セク時代に自宅でヘッドホンをしてながら夜な夜な作った理事会の議事録や会員拡大委員長をした年に4人目が生まれ人口拡大活動をしたこと、天神祭りで記憶がぶっ飛んだこと、アスパックや赤川花火、京都会議、全国大会などなど今振り返って見ると辛かった思い出、楽しかった思い出、一緒に語合い一緒に行動し達成感を共に味わった先輩やメンバーの顔が浮かんてくる。

いや～JCさ入って良かったちゃ～！

よく周りでは明るいJC暗い家庭と言われているが、家の場合嫁さんよりはこの8年間快く活動に出してくれました（家さ居ねほうがいいあながも）、感謝しています、40歳までの大人の学校、奉仕・修練・友情、それぞれの活動によりとても多くのことを学べる場所であるJC、この時、この時代でしか経験できない学べない貴重なときを頂きました。

まず無事に追出されることが出来ることに感謝感謝

JCで知合えた方々はおそらく200名ぐらいにはなるでしょうか、全ての方に本当にお世話になりました、ありがとうございます。

せば！まだの！

平成13年入会「アトム会」佐藤 裕宣

菅 原 豪 雄

長いようで、あっと言う間に、今年卒業を迎えてしまいました。途中、本気で退会を考えたこともありましたが、卒業を目の前にして、最後まで成し遂げられて本当に良かったと実感しております。

同じ役職を殆どやることなく、物理的に不可能な理事長としゃべり苦手には不可能な監事以外の役職には、殆ど就かせていただき、良い経験をさせた頂いたこと、とても感謝しております。ただ、子どもの頃から人見知りが激しく、人前で話をするのが極度に苦手な点は、まだまだ、苦手なままで、これからも修練が必要なのは残念です。

青年会議所に入って一番良かったと思うのは、いろんな人と知り合うことが出来たことです。鶴岡、庄内に留まらず、山形各地の仲間と知り合えたのはこれからの財産になりました。東北地区や日本には出向出来なかったのが、全国各地とまではいきませんでした。機会のある方は是非、良い経験をしに羽ばたいて欲しいと思います。

卒業して、皆さんと一緒に過ごす事が出来なくなるのは残念ですが、OBとして協力出来ることはしたいと思いますので、現役メンバーの皆さんも一生懸命地域のためにがんばってください。

草 島 孝 志

あっという間のJCライフだったというのが率直な感想です。36歳から40歳という社会人としてももっとも大切な5年間に、同世代の様々な環境で頑張っている仲間達と触れ合い、また、事業という共通の目標に向かい切磋琢磨した経験は、今後の人生に大きな影響を与えてくれたと思います。

特に青少年育成事業には長く携わらせていただき、明るい未来を描ける地域づくりの活動の大切さを実感できました。

やはり地域の活性化は、地場産業の振興もさることながら、将来を背負って立つ子どもたちに私たち大人が、いかに、素晴らしい夢や希望を持たせることができるかにかかっていると思います。その子どもたちとともに夢を描き、未来の庄内を切り拓くのは私たちJC世代であり、私たちの頑張る姿を見て子どもたちも、地元への愛をより深めていくと確信しています。

このことにより鶴岡の経済も活性化し、老若男女が世代を超えて活気に満ちた地域となってゆくのではないでしょう

うか。

現役メンバーの方々には、このことを踏まえて、それぞれの事業分野で今後も頑張っていたきたいと念じています。

最後に、JCの活動を通じて多くの方々と出会うことができたことに、心から感謝いたします。皆さまとの一つひとつの出会いが私にとってかけがえのない財産になりました。これからも公私にわたりその友情を育んでいきたいと願っています。

40歳での卒業という一区切りとなりますが、今後もフィールドは違っても同じ地域の一員として頑張っており

ますので、よろしくお願いいたします。

佐 藤 洋 行

平成19年度に入会し、約3年間楽しくも短い間でしたが、JCの皆様には色々と大変お世話になりました。あっという間の卒業ですが、2年目に花火保安警備副部長として夏場の杭打ちで大汗を流し、流した汗が報われたのか3年目には無理と思っていたアカデミー塾長として異例の出向を皆様のご協力のもと実現させて頂きました事本当にありがとうございました。

皆さんの更なるご活躍を影ながら見守らせて頂きます。

青 柳 孝 礼

まずはJCに入って2年間という短い時間でしたが、皆さんと出会えたこと一緒に活動できたことに対してとても感謝しています。ありがとうございました。

入会年度はともかく、2009年の1年間は自分の中でも非常に充実した1年でした。JCで活動することによって一人の人間としても成長できたと思ってます。いろんなことが勉強になりました。中でも会員大会に関してはたくさんの思い出にもなりました。知らない、わからないながらも投げ出したくもなったし、あきらめたりもしました。でも、皆さんと一緒に活動してなんとかやりぬく事ができました。自分一人ならたいした事は出来ないのですが、JCメンバーと一緒に過ごしたことによりたくさんの達成感、感動を味わう事が出来ました。本当にありがとうございました。

JCでの経験や体験をこれからの人生、会社、社会、いろいろな場面に生かして行きたいと思います。また、現役メンバーこれから将来メンバーになるであろう人々が活躍し、鶴岡JCを盛り上げ、鶴岡を、庄内を、山形を発展、発信してってください。

最後に全国大会最高！ ありがとうございます。

社団法人鶴岡青年会議所
収支計算書総括表

2009年1月1日から2009年12月31日

科目	一般会計	JC会館会計	基金会計	内部取引消去	合計
I 事業活動収支の部					
1. 事業活動収入					
①入会金収入	315,000				315,000
入会金収入	315,000				315,000
②会費収入	11,549,900				11,549,900
正会員会費収入	9,460,000				9,460,000
新入会員会費収入	1,719,900				1,719,900
特別会員会費収入	60,000				60,000
賛助会員会費収入	310,000				310,000
③事業収入	705,900				705,900
登録料収入	705,900				705,900
④補助金等収入	2,985,000				2,985,000
民間補助金収入	2,985,000				2,985,000
⑤雑収入	154,041		386		154,427
受取利息収入	2,506		386		2,892
その他雑収入	151,535				151,535
⑥前受金収入	240,000				240,000
⑦他会計からの繰入金収入		2,497,129	891,994	△ 3,389,123	0
事業活動収入計	15,949,841	2,497,129	892,380	△ 3,389,123	15,950,227
2. 事業活動支出					
①事業費支出	10,030,790	0	0		10,030,790
会員拡大プロジェクト事業費支出	303,463				303,463
事務局事業費支出	995,391				995,391
総務委員会事業費支出	1,031,674				1,031,674
会員ネットワーク委員会事業費支出	1,394,563				1,394,563
人間力向上委員会事業費支出	2,938,720				2,938,720
未来創造委員会事業費支出	905,444				905,444
JC・地域魅力発信委員会事業費支出	395,475				395,475
地域活性化創造委員会事業費支出	364,262				364,262
地域コミュニティ創造委員会事業費支出	1,701,798				1,701,798
②管理費支出	3,426,280	172,200	0		3,598,480
給料手当支出	1,034,331				1,034,331
会議費支出	0				0
旅費交通費支出	0				0
通信運搬費支出	40,461				40,461
消耗品支出	198,960	172,200			371,160
修繕支出	50,925				50,925
印刷製本費支出	235,725				235,725
水道光熱費支出	601,874				601,874
リース料支出	160,272				160,272
保険料支出	40,680				40,680
租税公課支出	0				0
渉外費支出					0
諸渉外費	160,234				160,234
大会諸費	284,700				284,700
事務雑支出	549,342				549,342
管理雑支出	68,776				68,776
③負担金支出	1,899,590				1,899,590
日本JC会費支出	562,500				562,500
JCI会費支出	138,240				138,240
国際協力金支出	197,100				197,100
出向者負担金支出	155,000				155,000
WE BELIEVE購読料支出	266,250				266,250
地区負担金支出	135,500				135,500
ブロック負担金支出	445,000				445,000
④他会計への繰入金支出	210,000	681,994	2,497,129	△ 3,389,123	0
⑤前受金支出	270,000				270,000
事業活動支出計	15,836,660	854,194	2,497,129	△ 3,389,123	15,798,860
事業活動収支差額	113,181	1,642,935	△ 1,604,749	0	151,367
II 投資活動収支の部					
1. 投資活動収入					
投資活動収入	0	0	0	0	0
投資活動収入計	0	0	0	0	0
2. 投資活動支出					
①固定資産取得支出	0	1,642,935	0		1,642,935
什器備品購入支出	0	1,642,935	0		1,642,935
投資活動支出計	0	1,642,935	0	0	1,642,935
投資活動収支差額	0	△ 1,642,935	0	0	△ 1,642,935
III 財務活動収支の部					
1. 財務活動収入					
財務活動収入	0	0	0	0	0
財務活動収入計	0	0	0	0	0
2. 財務活動支出					
財務活動支出	0	0	0	0	0
財務活動支出計	0	0	0	0	0
財務活動収支差額	0	0	0	0	0
IV 予備費支出					
予備費支出	-	-	-	-	-
当期収支差額	113,181	0	△ 1,604,749	0	△ 1,491,568
前期繰越収支差額	1,833,632	0	2,697,129	0	4,530,761
次期繰越収支差額	1,946,813	0	1,092,380	0	3,039,193

社団法人鶴岡青年会議所
一般会計収支計算書
2009年1月1日から2009年12月31日

科目	予算額	決算額	差異	備考
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
①入会金収入	315,000	315,000	0	
入会金収入	315,000	315,000	0	
②会費収入	11,659,900	11,549,900	110,000	
正会員会費収入	9,570,000	9,460,000	110,000	
新入会員会費収入	1,719,900	1,719,900	0	
特別会員会費収入	60,000	60,000	0	
賛助会員会費収入	310,000	310,000	0	
③事業収入	838,400	705,900	132,500	
登録料収入	838,400	705,900	132,500	
④補助金等収入	2,985,000	2,985,000	0	
民間補助金収入	2,985,000	2,985,000	0	
⑤雑収入	150,000	154,041	△ 4,041	
受取利息収入	10,000	2,506	7,494	
その他雑収入	140,000	151,535	△ 11,535	
⑥前受金収入	0	240,000	△ 240,000	
事業活動収入計	15,948,300	15,949,841	△ 1,541	
2. 事業活動支出				
①事業費支出	10,344,373	10,030,790	313,583	
会員拡大プロジェクト事業費支出	448,500	303,463	145,037	
事務渉外委員会事業費支出	995,725	995,391	334	
広報委員会事業費支出	1,077,726	1,031,674	46,052	
政策委員会事業費支出	1,394,563	1,394,563	0	
青少年委員会事業費支出	3,041,962	2,938,720	103,242	
地域コミュニティ委員会事業費支出	905,444	905,444	0	
交流委員会事業費支出	414,393	395,475	18,918	
会員大会支援委員会事業費支出	364,262	364,262	0	
日本一花火委員会	1,701,798	1,701,798	0	
②管理費支出	3,686,952	3,426,280	260,672	
給料手当支出	1,050,000	1,034,331	15,669	
会議費支出	15,000	0	15,000	
旅費交通費支出	0	0	0	
通信運搬費支出	70,000	40,461	29,539	
消耗品支出	200,000	198,960	1,040	
修繕支出	90,000	50,925	39,075	
印刷製本費支出	260,000	235,725	24,275	
水道光熱費支出	700,000	601,874	98,126	
リース料支出	160,272	160,272	0	
保険料支出	40,680	40,680	0	
租税公課支出	40,000	0	40,000	
渉外費支出				
諸渉外費	160,000	160,234	△ 234	
大会諸費	281,000	284,700	△ 3,700	
事務雑支出	550,000	549,342	658	
管理雑支出	70,000	68,776	1,224	
③負担金支出	1,884,590	1,899,590	△ 15,000	
日本JC会費支出	547,500	562,500	△ 15,000	
JCI会費支出	138,240	138,240	0	
国際協力金支出	197,100	197,100	0	
出向者負担金支出	155,000	155,000	0	
WE BELIEVE購読料支出	266,250	266,250	0	
地区負担金支出	135,500	135,500	0	
ブロック負担金支出	445,000	445,000	0	
④他会計への繰入金支出	210,000	210,000	0	
基金会計への繰入金支出	210,000	210,000	0	
⑤前受金支出	270,000	270,000	0	
事業活動支出計	16,395,915	15,836,660	559,255	
事業活動収支差額	△ 447,615	113,181	△ 560,796	
II 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入	0	0	0	
投資活動収入計	0	0	0	
2. 投資活動支出	0	0	0	
投資活動支出計	0	0	0	
投資活動収支差額	0	0	0	
III 財務活動収支の部				
1. 財務活動収入	0	0	0	
財務活動収入計	0	0	0	
2. 財務活動支出	0	0	0	
財務活動支出計	0	0	0	
財務活動収支差額	0	0	0	
IV 予備費支出	0	-	0	
当期収支差額	△ 447,615	113,181	△ 560,796	
前期繰越収支差額	1,833,632	1,833,632	0	
次期繰越収支差額	1,386,017	1,946,813	△ 560,796	

一般会計収支計算書に対する注記

1. 資金の範囲

資金の範囲には、現金及び普通預金を含めている。なお、前期末残高及び当期末残高は下記2に記載するとおりである。

2. 次期繰越収支差額に含まれる資産及び負債の内訳

科目	前期末残高	当期末残高
現金	80,987	66,591
預金	1,752,645	1,880,222
次期繰越収支差額	1,833,632	1,946,813

社団法人鶴岡青年会議所 JC会館会計収支計算書

2009年1月1日から2009年12月31日

科目	予算額	決算額	差異	備考
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
①他会計からの繰入金収入	0	2,497,129	△ 2,497,129	
基金会計からの繰入金収入	0	2,497,129	△ 2,497,129	
事業活動収入計	0	2,497,129	△ 2,497,129	
2. 事業活動支出				
①事業費支出	0	0	0	
②管理費支出	0	172,200	△ 172,200	
消耗品支出	0	172,200	△ 172,200	
③他会計への繰入金支出	0	681,994	△ 681,994	
基金会計への繰入金支出	0	681,994	△ 681,994	
事業活動支出計	0	854,194	△ 854,194	
事業活動収支差額	0	1,642,935	△ 1,642,935	
II 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入	0	0	0	
投資活動収入計	0	0	0	
2. 投資活動支出	0	0	0	
①固定資産取得支出	0	1,642,935	△ 1,642,935	
什器備品購入支出	0	1,642,935	△ 1,642,935	
投資活動支出計	0	1,642,935	△ 1,642,935	
投資活動収支差額	0	△ 1,642,935	1,642,935	
III 財務活動収支の部				
1. 財務活動収入	0	0	0	
財務活動収入計	0	0	0	
2. 財務活動支出	0	0	0	
財務活動支出計	0	0	0	
財務活動収支差額	0	0	0	
IV 予備費支出	0	-	0	
当期収支差額	0	0	0	
前期繰越収支差額	0	0	0	
次期繰越収支差額	0	0	0	

社団法人鶴岡青年会議所

基金会計収支計算書

2009年1月1日から2009年12月31日

科目	予算額	決算額	差異	備考
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
①雑収入	0	386	△ 386	
受取利息収入	0	386	△ 386	
①他会計からの繰入金収入	210,000	891,994	△ 681,994	
一般会計からの繰入金収入	210,000	210,000	0	
JC会館会計からの繰入金収入	0	681,994	△ 681,994	
事業活動収入計	210,000	892,380	△ 682,380	
2. 事業活動支出				
①事業費支出	0	0	0	
②管理費支出	0	0	0	
③他会計への繰入金支出	0	2,497,129	△ 2,497,129	
JC会館会計への繰入金支出	0	2,497,129	△ 2,497,129	
事業活動支出計	0	2,497,129	△ 2,497,129	
事業活動収支差額	210,000	△ 1,604,749	1,814,749	
II 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入	0	0	0	
投資活動収入計	0	0	0	
2. 投資活動支出	0	0	0	
投資活動支出計	0	0	0	
投資活動収支差額	0	0	0	
III 財務活動収支の部				
1. 財務活動収入	0	0	0	
財務活動収入計	0	0	0	
2. 財務活動支出	0	0	0	
財務活動支出計	0	0	0	
財務活動収支差額	0	0	0	
IV 予備費支出	0	-	0	
当期収支差額	210,000	△ 1,604,749	1,814,749	
前期繰越収支差額	2,697,129	2,697,129	0	
次期繰越収支差額	2,907,129	1,092,380	1,814,749	

基金会計収支計算書に対する注記

1. 資金の範囲

資金の範囲には、現金及び普通預金を含めている。なお、前期末残高及び当期末残高は下記2に記載するとおりである。

2. 次期繰越収支差額に含まれる資産及び負債の内訳

科目	前期末残高	当期末残高
預金	2,697,129	1,092,380
次期繰越収支差額	2,697,129	1,092,380

社団法人鶴岡青年会議所
正味財産増減計算書総括表
2009年1月1日から2009年12月31日まで

科目	一般会計	JC会館会計	基金会計	内部取引消去	合計
I 一般正味財産増減の部					
1. 経常増減の部					
(1)経常収益					
①受取入会金	315,000				315,000
受取入会金	315,000				315,000
②受取会費	11,549,900				11,549,900
正会員受取会費	9,460,000				9,460,000
新入会員受取会費	1,719,900				1,719,900
特別会員受取会費	60,000				60,000
賛助会員受取会費	310,000				310,000
③事業収益	705,900				705,900
登録料収入	705,900				705,900
④受取補助金等	2,985,000				2,985,000
民間補助金収入	2,985,000				2,985,000
⑤雑収益	154,041		386		154,427
受取利息	2,506		386		2,892
その他雑収益	151,535				151,535
⑥他会計からの繰入金	0	2,497,129	891,994	△ 3,389,123	0
経常収益計	15,709,841	2,497,129	892,380	△ 3,389,123	15,710,227
(2)経常費用					
①事業費	10,030,790	0			10,030,790
会員拡大プロジェクト事業費	303,463				303,463
事務局事業費	995,391				995,391
総務委員会事業費	1,031,674				1,031,674
会員ネットワーク委員会事業費	1,394,563				1,394,563
人間力向上委員会事業費	2,938,720				2,938,720
未来創造委員会事業費	905,444				905,444
JC・地域魅力発信委員会事業費	395,475				395,475
地域活性化創造委員会事業費	364,262				364,262
地域コミュニティ創造委員会事業費	1,701,798				1,701,798
②管理費	3,426,280	1,075,976			4,502,256
給料手当	1,034,331				1,034,331
会議費	0				0
旅費交通費	0				0
通信運搬費	40,461				40,461
減価償却費	0	903,776			903,776
消耗品費	198,960	172,200			371,160
修繕費	50,925				50,925
印刷製本費	235,725				235,725
水道光熱費	601,874				601,874
リース料	160,272				160,272
保険料	40,680				40,680
渉外費	444,934				444,934
事務雑費	549,342				549,342
管理雑費	68,776				68,776
③負担金	1,899,590				1,899,590
日本JC会費	562,500				562,500
JCI会費	138,240				138,240
国際協力金	197,100				197,100
出向者負担金	155,000				155,000
WE BELIEVE購読料	266,250				266,250
地区協議会負担金	135,500				135,500
ブロック協議会負担金	445,000				445,000
④他会計への繰出額	210,000	681,994	2,497,129	△ 3,389,123	0
経常費用計	15,566,660	1,757,970	2,497,129	△ 3,389,123	16,432,636
当期経常増減額	143,181	739,159	△ 1,604,749	0	△ 722,409
2. 経常外増減の部					
(1)経常外収益	0	0	0	0	0
(2)経常外費用	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	143,181	739,159	△ 1,604,749	0	△ 722,409
一般正味財産期首残高	1,593,632	28,125,526	2,697,129	0	32,416,287
一般正味財産期末残高	1,736,813	28,864,685	1,092,380	0	31,693,878
II 指定正味財産増減の部					
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0	0
III 正味財産期末残高	1,736,813	28,864,685	1,092,380	0	31,693,878

社団法人鶴岡青年会議所
一般会計正味財産増減計算書
2009年1月1日から2009年12月31日まで

科目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 受取入会金	315,000	240,000	75,000
受取入会金	315,000	240,000	75,000
② 受取会費	11,549,900	11,570,400	△ 20,500
正会員受取会費	9,460,000	9,790,000	△ 330,000
新入会員受取会費	1,719,900	1,310,400	409,500
特別会員受取会費	60,000	160,000	△ 100,000
賛助会員受取会費	310,000	310,000	0
③ 事業収益	705,900	496,600	209,300
登録料収入	705,900	496,600	209,300
④ 受取補助金等	2,985,000	2,066,850	918,150
国庫補助金収入	0	836,850	△ 836,850
民間補助金収入	2,985,000	1,230,000	1,755,000
⑤ 雑収益	154,041	136,609	17,432
受取利息	2,506	16,732	△ 14,226
その他雑収益	151,535	119,877	31,658
経常収益計	15,709,841	14,510,459	1,199,382
(2) 経常費用			
① 事業費	10,030,790	9,213,301	817,489
会員拡大プロジェクト事業費	-	0	0
総務委員会事業費	-	1,350,334	△ 1,350,334
総務委員会事業費	-	49,000	△ 49,000
会員ネットワーク委員会事業費	-	484,732	△ 484,732
人間力向上委員会事業費	-	263,039	△ 263,039
未来創造委員会事業費	-	1,451,909	△ 1,451,909
JC・地域魅力発信委員会事業費	-	1,635,276	△ 1,635,276
地域活性化創造委員会事業費	-	2,356,146	△ 2,356,146
地域コミュニティ創造委員会事業費	-	173,330	△ 173,330
赤川花火特別委員会事業費	-	849,010	△ 849,010
ブロック会員大会準備特別委員会事業費	-	600,525	△ 600,525
会員拡大プロジェクト事業費	303,463	-	303,463
事務渉外委員会事業費	995,391	-	995,391
広報委員会事業費	1,031,674	-	1,031,674
政策委員会事業費	1,394,563	-	1,394,563
青少年委員会事業費	2,938,720	-	2,938,720
地域コミュニティ委員会事業費	905,444	-	905,444
交流委員会事業費	395,475	-	395,475
会員大会支援委員会事業費	364,262	-	364,262
日本一花火委員会事業費	1,701,798	-	1,701,798
② 管理費	3,426,280	3,999,528	△ 573,248
給料手当	1,034,331	1,039,941	△ 5,610
会議費	0	30,700	△ 30,700
旅費交通費	0	53,840	△ 53,840
通信運搬費	40,461	65,276	△ 24,815
減価償却費	0	0	0
消耗品費	198,960	256,143	△ 57,183
修繕費	50,925	16,050	34,875
印刷製本費	235,725	197,400	38,325
水道光熱費	601,874	638,325	△ 36,451
リース料	160,272	187,992	△ 27,720
保険料	40,680	40,680	0
渉外費	444,934	984,270	△ 539,336
事務雑費	549,342	398,032	151,310
管理雑費	68,776	90,879	△ 22,103
③ 負担金	1,899,590	1,811,025	88,565
日本JC会費	562,500	560,000	2,500
JCI会費	138,240	144,900	△ 6,660
国際協力金	197,100	191,625	5,475
出向者負担金	155,000	50,000	105,000
WE BELIEVE購読料	266,250	271,000	△ 4,750
地区協議会負担金	135,500	138,500	△ 3,000
ブロック協議会負担金	445,000	455,000	△ 10,000
④ 他会計への繰出額	210,000	160,000	50,000
基金会計への繰出額	210,000	160,000	50,000
経常費用計	15,566,660	15,183,854	382,806
当期経常増減額	143,181	△ 673,395	816,576
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益	0	0	0
(2) 経常外費用	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	143,181	△ 673,395	816,576
一般正味財産期首残高	1,593,632	2,267,027	△ 673,395
一般正味財産期末残高	1,736,813	1,593,632	143,181
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	1,736,813	1,593,632	143,181

社団法人鶴岡青年会議所
JC会館会計正味財産増減計算書
2009年1月1日から2009年12月31日まで

科目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 他会計からの繰入金	2,497,129	0	2,497,129
基金会計からの繰入金	2,497,129	0	2,497,129
経常収益計	2,497,129	0	2,497,129
(2) 経常費用			
① 事業費	0	0	0
② 管理費	1,075,976	811,920	264,056
消耗品費	172,200	0	172,200
減価償却費	903,776	811,920	91,856
③ 他会計への繰山金	681,994	0	681,994
基金会計への繰出金	681,994	0	681,994
経常費用計	1,757,970	811,920	946,050
当期経常増減額	739,159	△ 811,920	1,551,079
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益	0	0	0
(2) 経常外費用	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	739,159	△ 811,920	1,551,079
一般正味財産期首残高	28,125,526	28,937,446	△ 811,920
一般正味財産期末残高	28,864,685	28,125,526	739,159
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	28,864,685	28,125,526	739,159

社団法人鶴岡青年会議所
基金会計正味財産増減計算書
2009年1月1日から2009年12月31日まで

科目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 雑収入	386	0	386
受取利息	386	0	386
① 他会計からの繰入金	891,994	160,000	731,994
一般会計からの繰入金	210,000	160,000	50,000
JC会館会計からの繰入金	681,994	0	681,994
経常収益計	892,380	160,000	732,380
(・) 経常費用			
① 事業費	0	0	0
② 管理費	0	0	0
③ 他会計への繰出金	2,497,129	0	2,497,129
JC会館会計への繰出金	2,497,129	0	2,497,129
経常費用計	2,497,129	0	2,497,129
当期経常増減額	△ 1,604,749	160,000	△ 1,764,749
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益	0	0	0
(2) 経常外費用	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 1,604,749	160,000	△ 1,764,749
一般正味財産期首残高	2,697,129	2,537,129	160,000
一般正味財産期末残高	1,092,380	2,697,129	△ 1,604,749
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	1,092,380	2,697,129	△ 1,604,749

社団法人鶴岡青年会議所
貸借対照表総括表
2009年12月31日現在

科 目	一般会計	JC会館会計	基金会計	内部取引消去	合計
I 資産の部					
1. 流動資産					
現金	66,591	0	0		66,591
普通預金	1,880,222	0	0		1,880,222
定期預金	0	0	0		0
流動資産合計	1,946,813	0	0		1,946,813
2. 固定資産					
(1)特定資産					
社団法人鶴岡青年会議所基金	0	0	1,092,380		1,092,380
特定資産合計	0	0	1,092,380		1,092,380
(2)その他固定資産					
建物	0	9,088,029	0		9,088,029
什器備品	0	1,776,656	0		1,776,656
土地	0	18,000,000	0		18,000,000
出資金	30,000	0	0		30,000
その他固定資産合計	30,000	28,864,685	0		28,894,685
固定資産合計	30,000	28,864,685	1,092,380		29,987,065
資産合計	1,976,813	28,864,685	1,092,380		31,933,878
II 負債の部					
1. 流動負債					
前受金	240,000	0	0		240,000
流動負債合計	240,000	0	0		240,000
負債合計	240,000	0	0		240,000
III 正味財産の部					
1. 一般正味財産	1,736,813	28,864,685	1,092,380		31,693,878
(うち特定資産への充当額)	(0)	(0)	(1,092,380)	()	(1,092,380)
正味財産合計	1,736,813	28,864,685	1,092,380		31,693,878
負債及び正味財産合計	1,976,813	28,864,685	1,092,380		31,933,878

社団法人鶴岡青年会議所
一般会計貸借対照表
2009年12月31日現在

科 目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金	66,591	80,987	△ 14,396
普通預金	1,880,222	1,752,645	127,577
定期預金	0	0	0
流動資産合計	1,946,813	1,833,632	113,181
2. 固定資産			
(1)特定資産			
社団法人鶴岡青年会議所基金	0	0	0
特定資産合計	0	0	0
(2)その他固定資産			
建物	0	0	0
什器備品	0	0	0
土地	0	0	0
出資金	30,000	30,000	0
その他固定資産合計	30,000	30,000	0
固定資産合計	30,000	30,000	0
資産合計	1,976,813	1,863,632	113,181
II 負債の部			
1. 流動負債			
前受金	240,000	270,000	△ 30,000
流動負債合計	240,000	270,000	△ 30,000
負債合計	240,000	270,000	△ 30,000
III 正味財産の部			
1. 一般正味財産	1,736,813	1,593,632	143,181
(うち特定資産への充当額)	(0)	(0)	(0)
正味財産合計	1,736,813	1,593,632	143,181
負債及び正味財産合計	1,976,813	1,863,632	113,181

社団法人鶴岡青年会議所
JC会館会計貸借対照表
2009年12月31日現在

科 目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金	0	0	0
普通預金	0	0	0
定期預金	0	0	0
流動資産合計	0	0	0
2. 固定資産			
(1)特定資産			
社団法人鶴岡青年会議所基金	0	0	0
特定資産合計	0	0	0
(2)その他固定資産			
建物	9,088,029	9,800,817	△ 712,788
什器備品	1,776,656	324,709	1,451,947
土地	18,000,000	18,000,000	0
出資金	0	0	0
その他固定資産合計	28,864,685	28,125,526	739,159
固定資産合計	28,864,685	28,125,526	739,159
資産合計	28,864,685	28,125,526	739,159
II 負債の部			
1. 流動負債			
前受金	0	0	0
流動負債合計	0	0	0
負債合計	0	0	0
III 正味財産の部			
1. 一般正味財産	28,864,685	28,125,526	739,159
(うち特定資産への充当額)	(0)	(0)	(0)
正味財産合計	28,864,685	28,125,526	739,159
負債及び正味財産合計	28,864,685	28,125,526	739,159

社団法人鶴岡青年会議所
基金会計貸借対照表
2009年12月31日現在

科 目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金	0	0	0
普通預金	0	0	0
定期預金	0	0	0
流動資産合計	0	0	0
2. 固定資産			
(1) 特定資産			
社団法人鶴岡青年会議所基金	1,092,380	2,697,129	△ 1,604,749
特定資産合計	1,092,380	2,697,129	△ 1,604,749
(2) その他固定資産			
建物	0	0	0
什器備品	0	0	0
土地	0	0	0
出資金	0	0	0
その他固定資産合計	0	0	0
固定資産合計	1,092,380	2,697,129	△ 1,604,749
資産合計	1,092,380	2,697,129	△ 1,604,749
II 負債の部			
1. 流動負債			
前受金	0	0	0
流動負債合計	0	0	0
負債合計	0	0	0
III 正味財産の部			
1. 一般正味財産	1,092,380	2,697,129	△ 1,604,749
(うち特定資産への充当額)	(1,092,380)	(2,697,129)	(△ 1,604,749)
正味財産合計	1,092,380	2,697,129	△ 1,604,749
負債及び正味財産合計	1,092,380	2,697,129	△ 1,604,749

社団法人鶴岡青年会議所

財産目録

2009年12月31日現在

科目	金額		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金 (一般会計) 現金手許有高	66,591		
普通預金 (一般会計) 山形銀行	1,000		
普通預金 (一般会計) 荘内銀行	1,000		
普通預金 (一般会計) きらやか銀行	1,003		
普通預金 (一般会計) 鶴岡信用金庫	1,877,219		
流動資産合計		1,946,813	
2. 固定資産			
(1) 特定資産			
社団法人鶴岡青年会議所基金 定期預金			
(基金会計) 鶴岡信用金庫	1,092,380		
(2) その他固定資産			
建物 (JC会館会計) JC会館	9,088,029		
什器備品 (JC会館会計) 電話設備等	1,776,656		
土地 (JC会館会計) JC会館敷地	18,000,000		
出資金 (一般会計) 鶴岡信用金庫	30,000		
その他固定資産合計	28,894,685		
固定資産合計		29,987,065	
資 産 合 計			31,933,878
II 負債の部			
1. 流動負債			
前受金 (一般会計) 2010年度賛助会員	240,000		
流動負債合計		240,000	
負 債 合 計			240,000
正 味 財 産			31,693,878

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 固定資産の減価償却の方法

定額法によっている。なお、主な耐用年数は次のとおりである。

建物	24年
什器備品	5～15年

2. 会計方針の変更

該当事項なし。

3. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特定資産				
社団法人鶴岡青年会議所基金				
定期預金	2,697,129	892,380	2,497,129	1,092,380
合 計	2,697,129	892,380	2,497,129	1,092,380

4. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	当期末残高	(うち正味指定財 産からの充当額)	(うち一般正味財 産からの充当額)	(うち負債に対応 する額)
特定資産				
社団法人鶴岡青年会議所基金				
定期預金	1,092,380	-	1,092,380	-
合 計	1,092,380	-	1,092,380	-

5. 担保に供している資産

該当事項なし。

6. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物	19,007,662	9,919,633	9,088,029
什器備品	4,193,065	2,416,409	1,776,656
合 計	23,200,727	12,336,042	10,864,685

7. 保証債務

該当事項なし。

8. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

該当事項なし。

9. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上 の記載区分
補助金						
10月例会補助金	鶴岡法人会	-	100,000	100,000	-	-
赤川花火	花火委員会	-	2,885,000	2,885,000	-	-
合 計		-	2,985,000	2,985,000	-	-

10. 指定財産から一般正味財産への振替額の内訳

該当事項なし。

11. 関連当事者との取引の内容

該当事項なし。

12. 重要な後発事象

該当事項なし。

監査報告書

社団法人 鶴岡青年会議所
理事長 佐藤 智信 殿

2010年 1月 7日
社団法人 鶴岡青年会議所

監事 佐々木 広 
監事 伊藤 守 

私達は、2009年1月1日から2009年12月31日までの会計年度における会計及び業務の監査を行い、次の通り報告する。

1. 監査の方法の概念

- (1) 会計監査について、帳簿並びに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて計算書類の正確性を検討した。
- (2) 業務監査について、理事会及びその他の会議に出席し、理事から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて業務執行の妥当性を検討した。

2. 監査意見

- (1) 収支計算書・正味財産増減計算書・貸借対照表及び財産目録は、会計帳簿の金額と一致し、法人の収支状況及び財産状態を正しく表示しているものと認められる。
- (2) 事業報告書の内容は真実であると認められる。
- (3) 理事の職務執行に関する不正行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事項はないと認める。